

第3章 福岡県の地域特性

本章では、福岡県の地域特性（自然的条件、社会的条件）について示します。

1. 自然的条件

(1) 地勢

本県は、筑前海、豊前海、有明海の三つの海に面しています。

主な山地としては、脊振山地（脊振山 1,055m）、英彦山地（英彦山 1,200m）、釈迦岳山地（釈迦岳 1,230m）があります。

河川では、遠賀川、筑後川、矢部川などの大河が平野部を形作りながら県土を縦横断しています（図 3-1）。

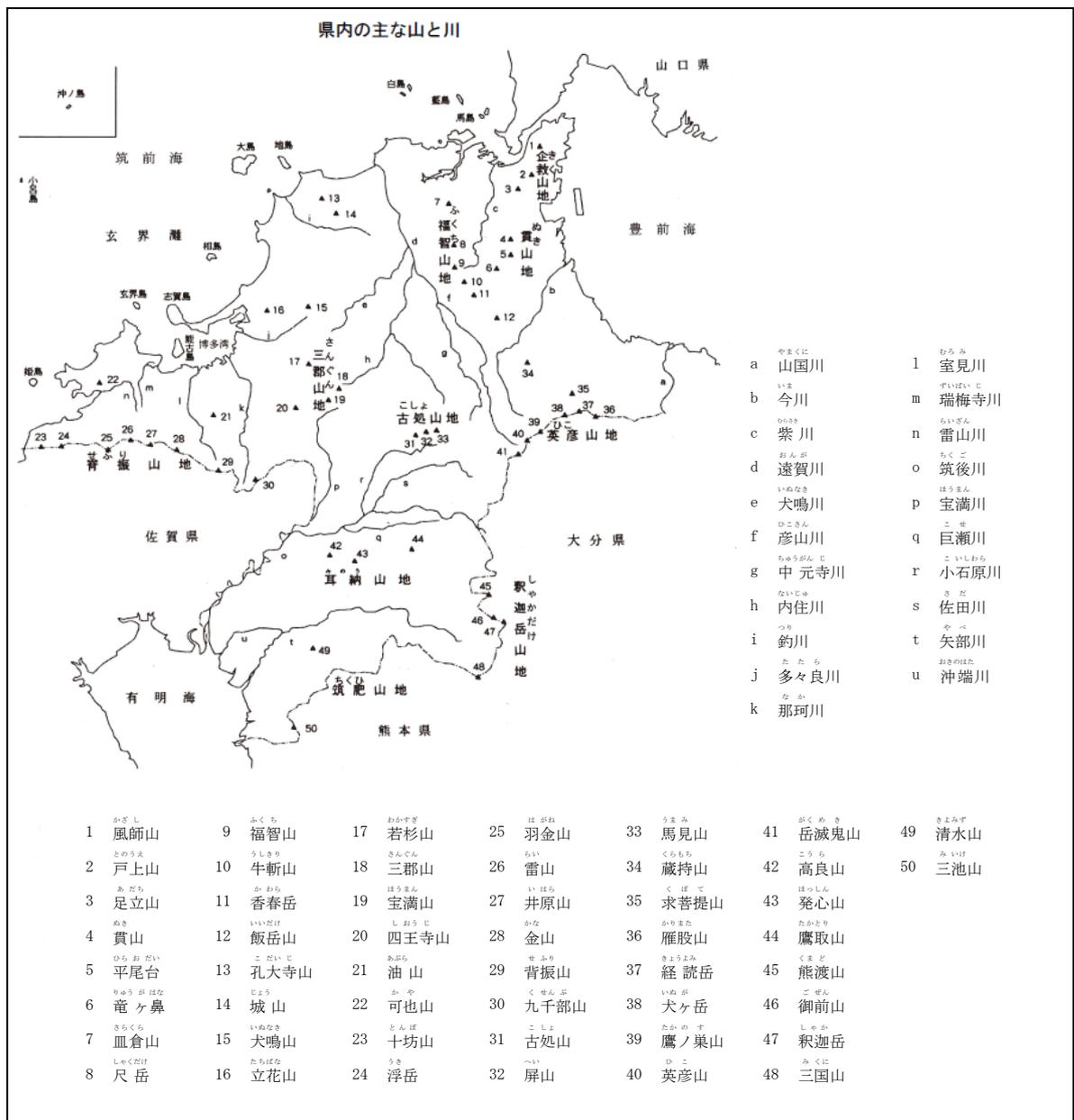


図 3-1 地勢図（主な山・川）

【出典：「平成 28 年版 福岡県環境白書」（福岡県）】

(2) 気候

本県の気候は、年間を通すと温暖的要素が強いと言えます。一方で日本海側に位置する福岡、北九州地方は冬季には大陸からの寒気の影響を受け、日本海型気候区の特徴を示しています。筑後平野を中心とする内陸平野部は、三方を山に囲まれており、内陸型気候の特徴を示し、筑豊盆地は、気温の日較差や年較差が大きく、盆地特有の気候を示しています。

1981年から2010年の平年値をみると、年平均気温は17.0℃で、年間降水量は1,612.3mmとなっています(図3-2)。

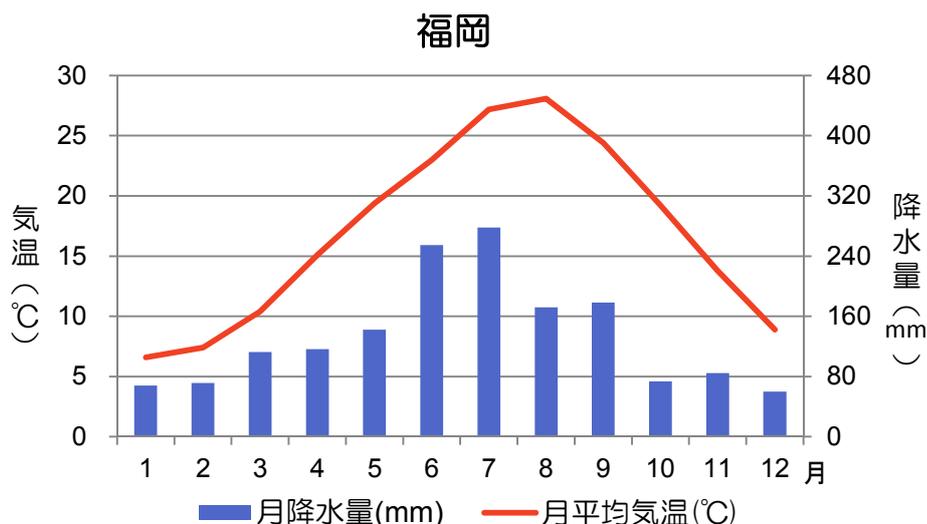
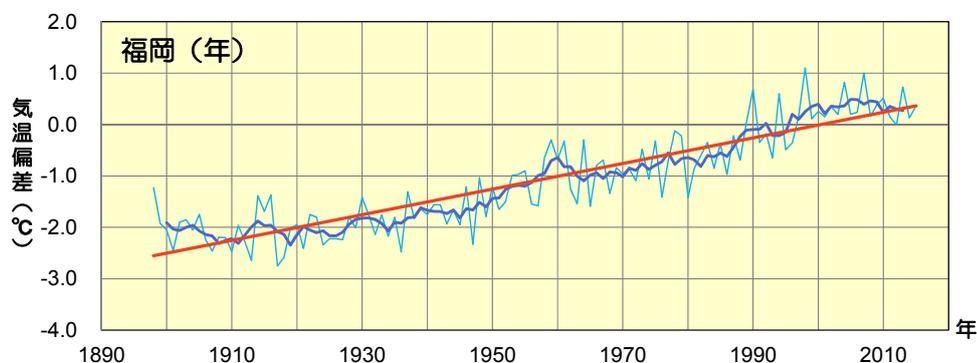


図 3-2 月平均気温・月降水量 (1981～2010年の平年値)

【出典：「九州・山口県の気候変動監視レポート 2015」(福岡管区気象台)】

①年平均気温

年平均気温は、100年あたり2.49℃の割合で上昇しており、九州・山口県の観測地点の中では変化傾向が最も大きくなっています(図3-3)。この値は、日本の年平均気温の上昇(1.16℃/100年)割合よりも大きくなっており、地球温暖化による上昇に加え、都市化の影響やより地域的な気候変動の影響を受けた結果と考えられます。



青の細線：各年の年平均気温の基準値からの偏差、青の太線：5年移動平均、赤の直線：長期変化傾向。

基準値は1981～2010年の30年平均値。統計期間：1898～2015年

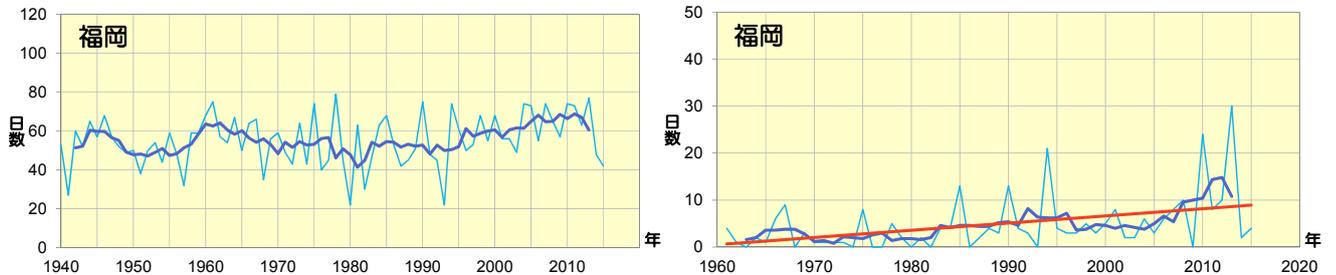
図 3-3 年平均気温の経年変化

【出典：「九州・山口県の気候変動監視レポート 2015」(福岡管区気象台)】

②真夏日・猛暑日

真夏日・猛暑日の長期変化傾向を見ると、日最高気温が 30℃以上の真夏日は、10 年あたり約 1.2 日の割合で増加しています。

また、日最高気温が 35℃以上の猛暑日は、10 年あたり約 1.5 日の割合で増加しています（図 3-4）。



青の細線：年々の値、青の太線：5年移動平均、赤の直線：長期変化傾向。

統計期間：真夏日（1940～2015年）、猛暑日（1961～2015年）

図 3-4 真夏日（左）及び猛暑日（右）の年間日数経年変化

【出典：「九州・山口県の気候変動監視レポート 2015」（福岡管区气象台）】

③日降水量 100mm 以上の日数

日降水量 100mm 以上の日数の長期変化傾向を見ると、20 世紀初頭（1898～1927 年）に比べ、ここ 30 年（1986～2015 年）の日数は 1.7 倍となっています（図 3-5）。



青の細線：年々の値、青の太線：5年移動平均。

統計期間：1898～2015年

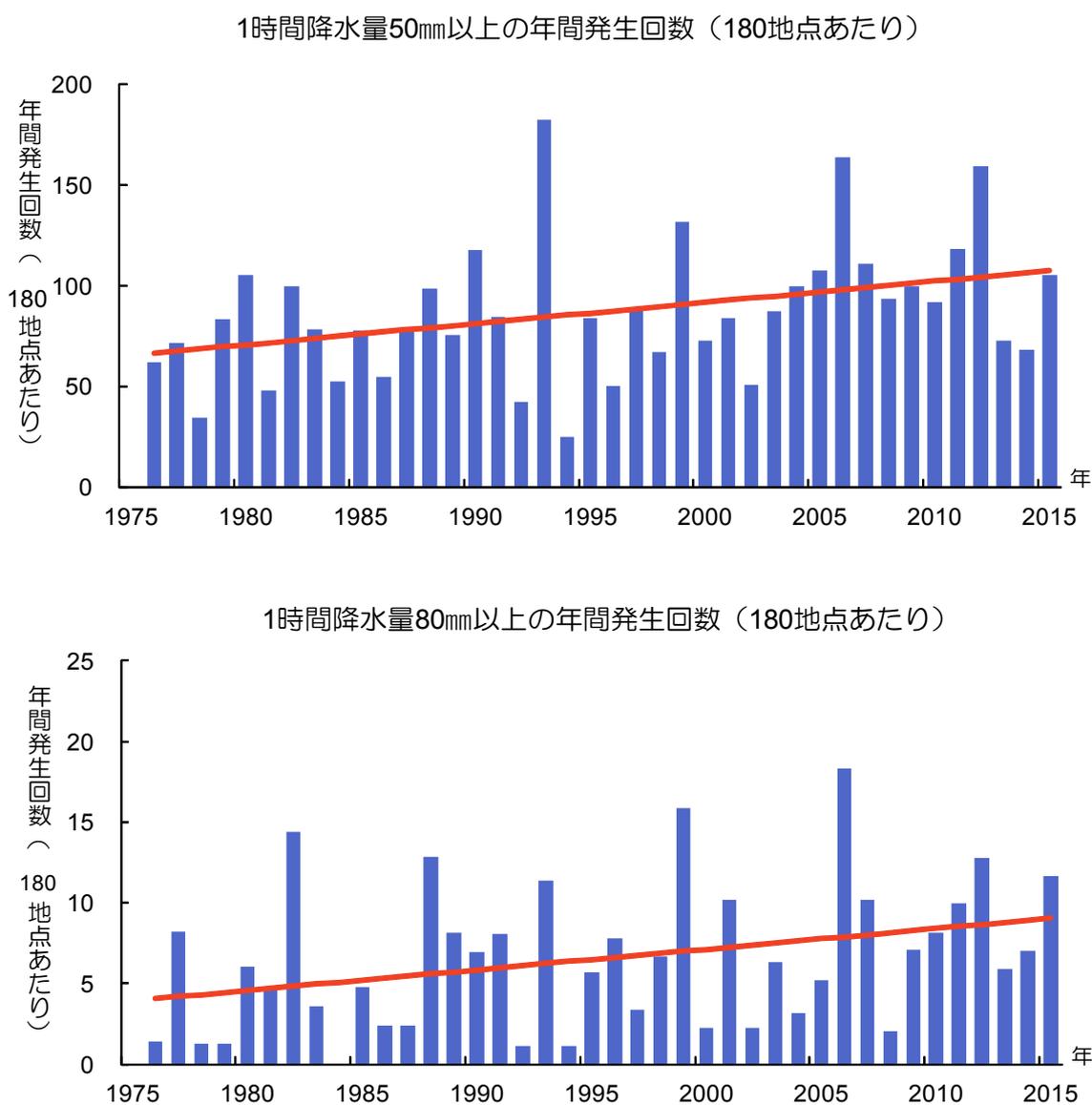
図 3-5 日降水量 100mm 以上の日数の経年変化

【出典：「九州・山口県の気候変動監視レポート 2015」（福岡管区气象台）】

④短時間強雨

九州・山口県の短時間強雨の発生傾向を見ると、1976～2015年の40年間の統計では、1時間50mm以上の非常に激しい雨の発生回数は、10年あたり10.5回の割合で増加しています。

また、1時間80mm以上の猛烈な雨も10年あたり1.3回の割合で増加しています（図3-6）。



アメダス地点数（180地点）あたりの回数に換算。青の棒：年々の値、赤の直線：長期変化傾向。

統計期間：1976～2015年

図3-6 九州・山口県のアメダス地点で1時間降水量が50mm以上(上)80mm以上(下)となった年間回数

【出典：「九州・山口県の気候変動監視レポート2015」（福岡管区気象台）】

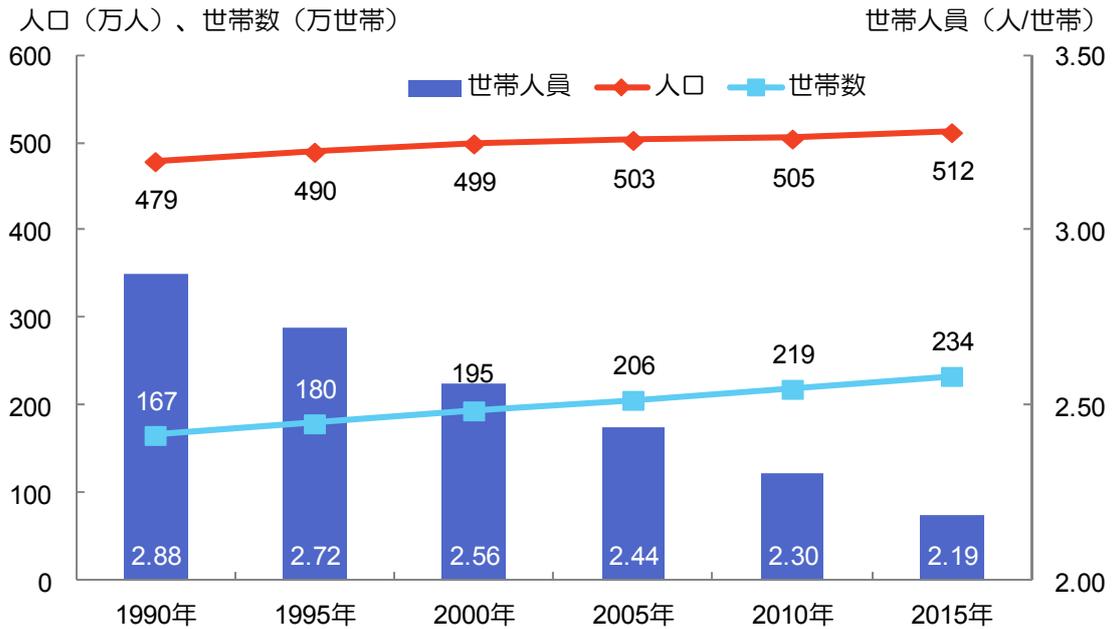
2. 社会的条件

(1) 人口・世帯数

2015年における本県の人口は512万人、世帯数は234万世帯で、いずれも1990年以降増加傾向が続いています。

本県の人口は、少子高齢化の進展により、死亡数が出生数を上回る自然減が続く一方、転入数が転出数を上回る転入超過が続いており、社会増が自然減を上回っていることにより増加しています。

また、単身世帯の増加により世帯人員は減少傾向にあります。世帯数は増加しています（図3-7）。



※住民基本台帳法の改正に伴い、2015年は外国人住民も含む

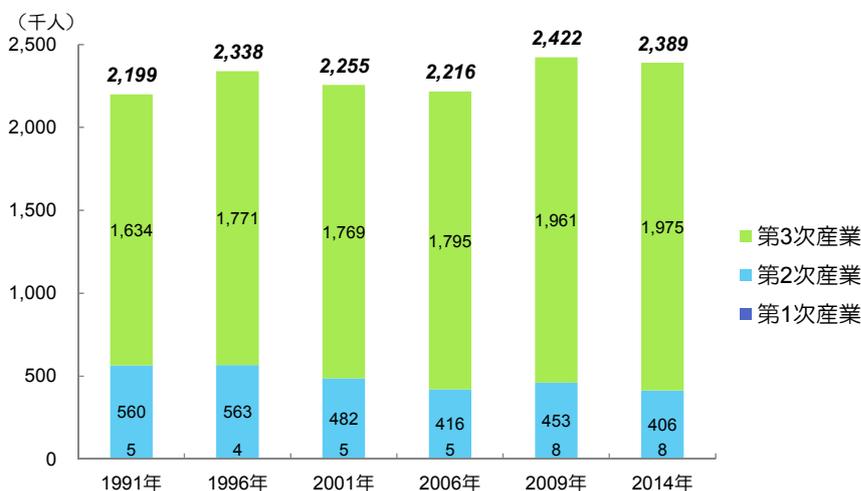
図3-7 人口・世帯数・世帯人員の推移

【出典：「住民基本台帳」(各年9月末日現在)】

(2) 産業構造

本県の産業大分類別就業人口は、2,100～2,500千人の間で推移しており、第3次産業の割合が最も高くなっています。

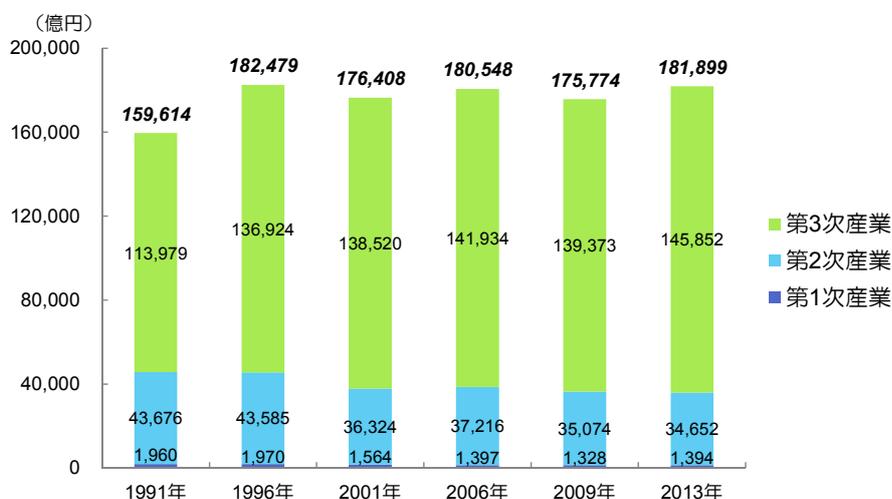
産業大分類別県内総生産は、1996年以降、約18兆円前後で推移しており、第3次産業の割合が最も高くなっています。



※1991、1996、2001、2006年は事業所・企業統計調査、2009、2014年は経済センサス基礎調査の数値

図 3-8 産業大分類別就業人口の推移

【出典：「福岡県統計年鑑」（福岡県）】



※「輸入品に課せられる税・関税」、「総資本形成に係る消費税」、「帰属利子」は各産業に按分

図 3-9 産業大分類別県内総生産の推移

【出典：「福岡県統計年鑑」（福岡県）】

※第1次産業：農林水産業

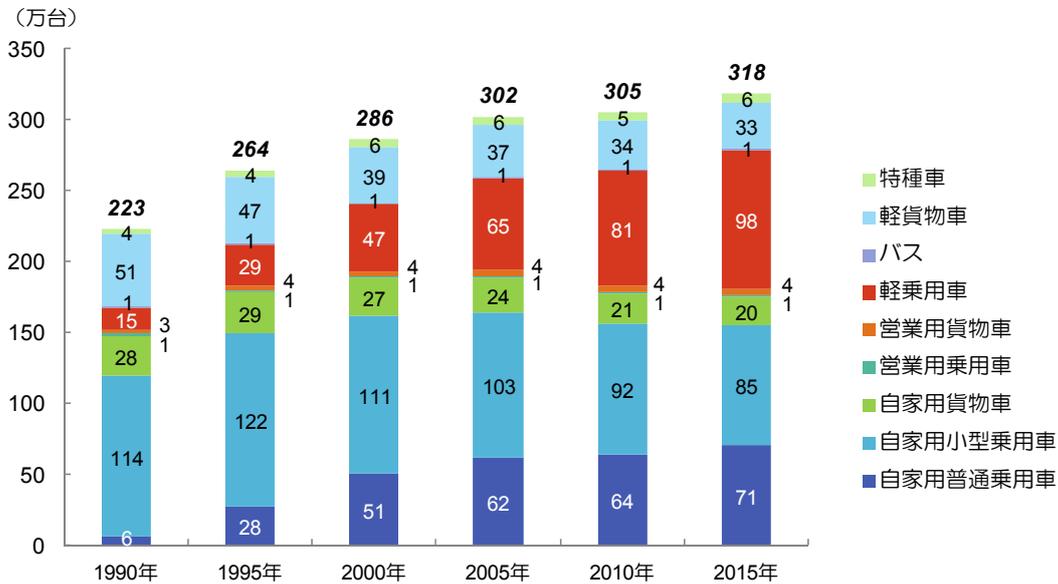
第2次産業：鉱業、製造業、建設業

第3次産業：電気・ガス・水道業、卸売・小売業、金融・保険業、不動産業、運輸業、情報通信業、サービス業+政府サービス生産者（電気・ガス・水道業、サービス業、公務）+対家計民間非営利サービス生産者（サービス業）

注：四捨五入の関係で合計が一致しないことがある

(3) 自動車登録台数

2015年における本県の自動車登録台数は318万台で1990年と比較して大きく増加しています。特に、自家用普通乗用車及び軽乗用車の台数の伸びが大きくなっています(図3-10)。



注：四捨五入の関係で合計が一致しないことがある

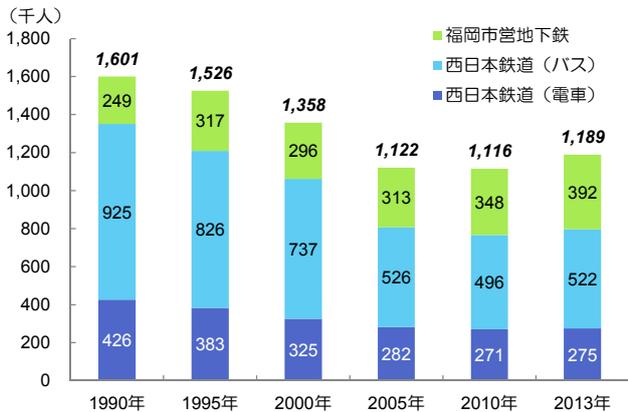
図3-10 自動車登録台数の推移

【出典：「福岡県統計年鑑」(福岡県)、「九州管内自動車保有台数」(国土交通省九州運輸局)】

(4) 公共交通機関利用状況

福岡市営地下鉄の1日当たり乗車人員数は増加傾向にありますが、西日本鉄道の電車及びバスの1日当たり乗車人員数は、2013年は増加しているものの、1990年以降減少傾向にあり、3交通機関の合計は2005年以降110万人台で推移しています(図3-11)。

JR九州の県内上位10駅の1日当たり乗車人員数は、21~25万人で推移しています(図3-12)。



注：四捨五入の関係で合計が一致しないことがある

図3-11 福岡市営地下鉄及び西日本鉄道の1日当たり乗車人員数

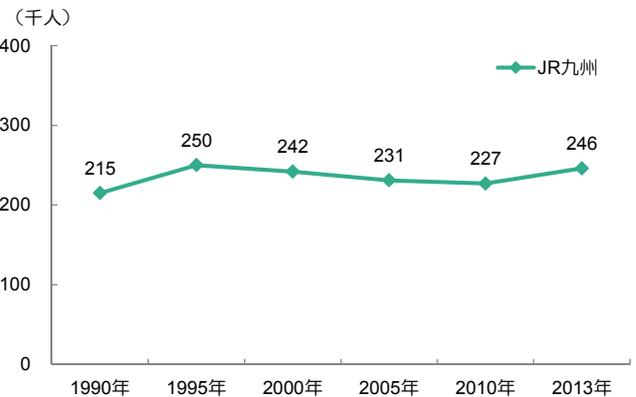


図3-12 JR九州の1日当たり乗車人員数(県内上位10駅の合計)

【出典：福岡県統計年鑑(福岡県)】

(5) 再生可能エネルギーの導入状況

2016年3月までに県内に導入された再生可能エネルギー発電設備による年間発電量は、26.0億kWhであり、県内における年間電力消費量360億kWh(2013年度推計値)の約7.2%に相当すると推計されます。

種類別・地域別に見ると、太陽光発電は県内各地で導入が進んでおり、全体の7割強を占めています。また、バイオマス*発電は、主に北九州地域・福岡地域・筑後地域で導入が進んでいます。

ほかにも、北九州市響灘地区の陸上風力発電や、県企業局が運営する水力発電所(八女市など)をはじめとした再生可能エネルギー発電設備が導入されています。

表 3-1 県内における再生可能エネルギー発電設備による年間発電量(2016年3月時点)

	太陽光	陸上風力	水力発電	地熱	バイオマス発電	合計
北九州地域	4.8億kWh	0.3億kWh	0.0億kWh	0.0億kWh	2.1億kWh	7.3億kWh
福岡地域	4.6億kWh	0.0億kWh	0.2億kWh	0.0億kWh	3.0億kWh	7.8億kWh
筑後地域	4.4億kWh	0.0億kWh	0.8億kWh	0.0億kWh	0.8億kWh	6.0億kWh
筑豊地域	4.8億kWh	0.0億kWh	0.0億kWh	0.0億kWh	0.0億kWh	4.9億kWh
合計	18.6億kWh	0.4億kWh	1.1億kWh	0.0億kWh	5.9億kWh	26.0億kWh

※年間発電量(kWh)=導入量(kW)×365日×24時間×設備利用率(一般的な発電効率)

※四捨五入の関係で合計が一致しないことがある

【出典：資源エネルギー庁公表資料、市町村アンケート等より県作成】

また、固定価格買取制度*に基づく再生可能エネルギー発電設備の新規導入量(2016年3月末時点)は全国4位となっており、福岡県は再生可能エネルギー先進県の一つとなっています。

表 3-2 再生可能エネルギー固定価格買取制度に基づき新規導入された発電設備の容量(2016年3月末時点)

	都道府県名	認定設備容量
1位	茨城県	1,617,516 kW
2位	千葉県	1,359,521 kW
3位	愛知県	1,346,414 kW
4位	福岡県	1,339,490 kW
5位	兵庫県	1,309,793 kW
	(全国合計)	(28,434,614 kW)

【出典：資源エネルギー庁公表データより県作成】